

1 事業実施報告「文化財建造物保存・活用講座」(2014年度)

「文化財建造物保存・活用講座」は、所有者の皆さんや歴史的建造物の保存・活用に係わる人を対象に、文化財建造物の保存・活用にあたっての課題を乗り越えるための専門的・事例的情報を提供する場として、会設立年度(2011年度)より実施している事業です。2014年度の第5回以降を以下にご報告します。

第5回 県内視察「旧市川家住宅」(日進市)

旧市川家住宅は、明和6年(1769)に建造され、江戸時代中期の構造が大きな改造なく往時のままに残されています。今後は、日進市の生涯学習の拠点として活用される予定で改修工事が実施されています。日進市より保存活用の経緯などを伺い、改修工事に携わっている林廣伸氏に工事現場をご案内いただきました。

H26.12.6(土)	内容	参加者
10:00~ 10:45	(1) 座学(場所:野方三ツ池交流館) ・旧市川家の概要と今後について(講師:日進市生涯学習課職員) ・旧市川家の建築的特徴と改修工事について (講師:林廣伸氏/株林廣伸建築事務所所長)	16名 (講師・事務局含む)
11:00~ 12:00	(2) 工事現場見学 ・専門家による工事現場案内と見学[随時質疑応答](講師:林廣伸氏)	



前半の座学の様子



林氏より解説いただきながら工事現場を見学



納戸物入れの扉に記された墨書を拝見

第6回 座学「歴史的建造物の保存・活用を考える」

保存改修の実務に関わられている専門家の立場から、また保存活用に取り組みられている実践者の立場から、お二人の講師をお招きしました。歴史的建造物の保存改修をすすめるにあたってどういう点に留意したらよいか、活用をすすめるためのポイントなどをご報告いただきました。

H27.2.3(火)	内容	参加者
14:05~ 15:20	(1) 古民家再生への想い ~再生の意義とポイント~ 講師:川辺昌弘氏(降幡建築設計事務所名古屋分室)	32名 (講師・事務局含む)
15:30~ 16:45	(2) 空き家をまちの縁側に ~寿々家再生活用プロジェクトの取り組みから~ 講師:天野博之氏(地域人文化学研究所代表理事)	



古民家の再生や移築についてお話いただいた川辺氏



足助での取り組みについてお話いただいた天野氏



質疑応答の様子

第7回 座学「県外の取り組みに学ぶ」

今年度最後の講座は、滋賀県でヴォーリス建築の保存・活用に取組まれている所有者、静岡県で歴史的建築物の保存・活用のネットワークづくりに取組まれている建築の専門家のお二人を県外からお招きし、お話いただきました。

H27.3.10(火)	内容	参加者
14:05~ 15:20	(1) 日夏里館(ひかりかん)の名前に込めた想い—自治とまちづくりの原点保存の今— 講師：古川与志継氏(日夏ヴォーリス建築の会 代表)	28名 (講師・事務局含む)
15:30~ 16:45	(2) 歴史まちづくりネットワークの実践 —専門家+職人+行政+所有者のネットワーク— 講師：塩見寛氏(Kei まちづくりネットワーク代表)	



ヴォーリス建築「日夏里館」についてお話いただいた古川氏



歴史ネットワークについてお話いただいた塩見氏



会場の様子

2 事業実施報告「登録文化財ネットワーク構築事業」(2014年度)

スマートフォンアプリ「登録文化財ナビ」(iPhone用)が完成しました!

登録有形文化財のネットワーク化を図ることにより、回遊性を高め、地域活性化を推進することを目的に、今年度の新規事業として、登録有形文化財に関する情報を外出先でも簡単に入手できるスマートフォンを使った案内システム「登録文化財ナビ」(iPhone用)を作成しました。

*使い方...App Storeで「登録文化財ナビ」と検索し、アプリをダウンロードしてお使いください。

エリア(市町村)種別(建物用途)テーマ(カテゴリ)から検索できます。



現地でのみ写真撮影したものをスタンプとして保存できます。



mapアプリと連携し、現在地から文化財までのルートが検索できます。

現地でのみお宝情報も見ることができます。



※使い方の詳細は愛知登文会ホームページ(<http://www.aichi-tobunkai.org/>)に掲載しております。

3 事業実施報告「こども文化財体験事業」(2014年度)

小中学生を対象にした講座で、登録有形文化財について所有者や専門家より解説してもらうとともに、文化財建造物や地域にちなんだ文化体験を通じて、登録有形文化財の価値を肌身で体感してもらう事業です。

墨会館（一宮市）

テーマ：まちの宝「墨会館」の謎をとけ ～折り紙建築にもチャレンジしてみよう～

墨会館は、昭和32年(1957年)に完成した丹下健三氏設計の事務所建築です。現在は一宮市が所有し、平成26年度に「墨会館・小信中島公民館」として生まれかわりました。

前半は、墨会館のボランティアガイドの皆さんによる建物謎解きツアーを実施しました。普段は使用できない2階(事務所時代は会長・社長室があった)も特別にボランティアガイドの皆さんの案内で見学しました。後半は、一宮市内の4つの建物(墨会館のほか登録有形文化財では旧湊屋と木曾川資料館、その他としてツインアーチ)を題材にした折り紙建築づくりを行いました。

H27.3.14(土)	内容	参加者
14:00~14:05	あいさつ・会の紹介・主旨説明	1階中会議室 1階・2階 墨会館外周
14:05~14:55	墨会館ボランティアガイドによる建物謎解きツアー “「世界のタンゲ」丹下健三からの挑戦状” (案内・講師：墨会館ボランティアガイド)	
15:00~16:30	折り紙建築づくり (指導・素材提供：寛清澄氏)	1階中会議室



墨会館の外周を回って建物の形を勉強



ガイドさんと一緒に建物の謎解きに挑戦



カッターと定規を上手に使って紙を切ることも達



完成した作品

岡崎信用金庫資料館（岡崎市）

テーマ：まちの宝「岡崎信用金庫資料館」 ～建築家がデザインした建物を作ってみよう～

岡崎銀行本店の建物として、名古屋を拠点に近代建築を手掛けた鈴木禎次氏の設計により大正6年(1917)4月に誕生した銀行建築です。旧東海道沿いのシンボリックな建物となっています。

はじめに、あいちヘリテージマネージャーの榊原幸広氏より、岡崎信用金庫資料館の歴史や設計者の鈴木禎次氏について解説いただきました。後半は、岡崎信用金庫資料館の建物模型を紙で制作するペーパークラフトづくりを行いました。長時間かかる根気のいる作業ですが、全員無事に完成させることができました。

H27.3.22(日)	内容	参加者
10:00~10:05	あいさつ・会の紹介・主旨説明	2階展示場
10:05~10:25	建物の魅力を知ろう (講師：榊原幸広氏(あいちヘリテージマネージャー))	2階展示場
10:25~12:00	ペーパークラフトづくり (指導・素材提供：浅井俊雄氏)	2階展示場



岡崎信用金庫資料館の外観



解説を聞く子ども達



みんな集中して制作



伝統的建造物の防火対策について—犬山市城下町地区の火災—

愛知登文会会長 長谷川良夫

1. 概要

平成27年1月11日(日)午後7時20分頃、犬山市城下町地区の中心地である本町通りの「ローレライ麦酒館犬山城下町店」から火災が発生し、6時間後の12日午前1時過ぎに店舗や住宅5棟が全焼して鎮火した。出火原因は漏電の可能性が高いとのこと。

焼失した5棟は登録文化財にはなっていなかったが、大和印刷と永井家は江戸時代後期頃まで遡る建築で、歴史的風致形成建造物として最近市の補助事業で内外を修理し、まちづくり株式会社の式番屋は昭和初期の建物で、景観形成助成金で修繕が行われた建物である。その他の建物も昭和初期の建物で、伝統的建造物としてリストに載せてあった。これらの建物が失われたのは痛恨の極みである。

2. 火災の状況

これだけの大火になったのは、火元であるローレライとその南隣は昼間は人がお店に居るが、夜になると無人で、南隣の永井家は空き屋であった。火元のローレライの建物は南隣の式番屋とは元々一つの建物であったものを二つに分割して貸している、二階は襖で仕切られたままだった。火が出たのは夜の7時頃で店の人は帰宅して空室状態で、通行人が二階から火が出ていると騒ぎ、消防自動車20台来て消火に当たったが、既にかなり大きな火災になっていて、消防の人々でも道幅の狭い正面側反対の町家に延焼を防止するのが精一杯だったに違いない。城下町の特徴で、反対側

の道までは約100メートルあり、裏側から消火活動することは困難である。

3. 木造家屋密集地の防火対策

文化庁が進めている文化財建造物・伝統的建造物群保存地区の防火対策は、我が国の文化財建造物は木造で火災に弱いと、早期発見の為に自動火災報知設備、そして素人でも初期の火災に対応出来るような消火栓設備(2号消火栓)、放水銃の設置を積極的に補助して進めている。火災は初期の段階ならば、水バケツ、消火器で十分消火できる。最初の5分間が勝負で、天井まで燃え広がると消火器での対応では難しく、2号消火栓の設置が有効である。自動火災報知設備を全戸に設置し、副受信器を各戸に設置して何処で火災が発生したかわかるようにし、留守の場合はカギを近所の人に預ける住民組織が必要である。

早くから住民組織が出来上がっている高山の重要伝統的建造物群保存地区では隣組組織がしっかりしていて、日頃から訓練が行われている。



▲犬山市本町通りの火災現場
(写真提供 犬山市歴史まちづくり課)

掌の文化財 愛知登文会理事 筑清澄

3月のこども文化財体験講座の会場は、丹下健三設計の墨会館でした。折り紙建築の講師をすることになり、その準備をしながら建築家としての道を歩き始めた25年前の春、最初に師事した設計事務所「丹下先生はね・・・。」と丹下健三・都市・建築設計研究所のOBだった恩師から丹下健三さんの話を聞いて、建築家としての心構えや考え方に影響を受けたことを思い出しました。

当日のワークショップがはじまり、子供達は建物ボランティアグループによるクイズ形式の建物紹介の後に、切れ目を入れた紙を半分に折り曲げて、その紙を開くと建物が飛び出すからくりの「折り紙建築」に挑戦してもらいました。折り紙建築は開催地の一宮付近の登録文化財が題材ですが、子供達は建物の話よりも工作に夢中でした。しかしこの折り紙建築を家に持ち帰って、今日体験したことを家族と話すこと、そして何より登録文化財を自分の手で作ったことで、今まで気づかなかった古い建物にも価値があるということに気付いてくれればと思います。

私は建築士として、いつもは一般的な新築の建物や増改築だけでなく古民家の増改築をしています。しかし古い建物の場合は、手間を掛けてしっかりと作られこれからも十分使い続けられるような建物でも、取り壊されて新築されることが少なくありません。そういう時は建築士として見れば

価値のある建物でも、所有者の方にとっては新しい建物の方が価値を感じるからに他なりません。物の価値というのはきちんと建物を評価出来るような経験があったり、知識を身に付けて見る目を養わないと気付くことが出来ません。

普段街で見慣れた建物も掌に載せるといつもと違う目線で見る事が出来ます。今まで気づかなかった新しい価値が見えるかもしれません。

そして、こども達の掌に建物を載せることには価値があると思います。だって何時の時代も子供たちの掌の中には夢や希望がいっぱい詰まっていますから。



▲墨会館の折り紙建築



▲墨会館での折り紙建築制作風景

編集後記

平成26年度事業も、皆様の御支援とご協力のもと、予定していた全ての事業を無事に終えることができました。ここに感謝申し上げます。

また、平成27年度文化庁文化遺産を活かした地域活性化事業の採択が通り、今年度も文化庁より補助を受けて事業を進めてまいります。今年度も引き続き、ご支援ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

愛知登文会ニュース 第11号

発行日：平成27年4月24日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目10番3号

(一財)名古屋陶磁器会館内

TEL 052-935-7841 FAX 052-935-9592

E-mail info@aichi-tobunkai.org

URL <http://www.aichi-tobunkai.org>

FB <http://www.facebook.com/aichi.tobunkai>